

高木復興大臣ぶら下がり記者会見録
(平成27年10月28日(水) 13:56～14:00 於) 岩手県陸前高田市)

1. 発言要旨

本日は、岩手県釜石市、大船渡市、陸前高田市を訪問をいたしました。

鵜住居地区学校等建設地、平田第6仮設団地、これは釜石市、そして大船渡市では、おおふなと夢商店街、また、陸前高田市では旧道の駅高田松原タピック45などを視察させていただきました。

本日お会いした首長の皆さんからは、視察の中で、ラグビーワールドカップ2019のスタジアムや、周辺環境の整備、復興道路、復興支援道路の着実な推進のための予算を確保してほしい、あるいはまた、復興・創生期間での財政支援の継続、防災集団移転事業での買取地の利活用を図るための予算の確保や、復興交付金の柔軟な取り扱いについて、また、高田松原津波復興祈念公園の整備促進について要望がございました。

そうしたお話をいただき私からはワールドカップ関係施設や、復興道路、祈念公園等の整備について、被災地の皆さんに予算で心配していただくことのないよう、復興・創生期間の予算6.5兆円でございますけれども、しっかり確保させていただいたという話をさせていただきました。

しっかりと復興を成し遂げて、ラグビーワールドカップの機会に、世界に向け、復興した姿を示していきたいということ。

また、防集事業の買取地の利活用についてもしっかり承りましたので、今後相談させていただきながら対応していきたいと、このような話をさせていただいたところでございます。

以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 大臣、岩手県ですとか、宮城県ですとか、復興が進んでいるというお話もこれまでされてきたと思うんですけれども、実際、こういう、例えば大船渡の商店街で、これから別の場所で店を再建していくですとか、例えば陸前高田で、これから町の中心部に移転していくですとか、こういった状況をご覧になって、どのように思われましたか。

(答) いよいよ来年から復興・創生期間に入るわけでありましてけれども、5年といわずに、1年でも2年でも早く、しっかりと復興をなし遂げなきゃならないということでもあります。

当初より、岩手、宮城は道筋はできたかなというような思いは持っております。今日も、その感じはいたしましたけれども、しかし、復興が進めば進んだで、また新しい課題が出てくると。それぞれの首長さん、あるいはまた被災地の皆さん、力を合わせてしっかりとやっていただいておりますけれども、まさにそうした方たちの思いというものをしっかりと受けとめて、さらに

復興の加速化に向けて頑張らなきゃならんという思いを、今日は強くさせていただきました。

(問) 次の新しい課題に対しても、柔軟に対応していくと。

(答) そうです。今日は、そういうお話もいただきました。

(問) 朝、釜石からご覧になって、初めてご覧になったかと思うんですけども、全体的な印象、波が15メートル、ここは来たわけですけども、改めてどうお感じになりましたか。

(答) もちろん映像等でも見てきましたし、すごく、本当にもう、あつてはならないような災害が起きたということは認識しておりましたけれども、特にここに来て、そのタピック45あたりから、ここまで波が来たと。そして養殖の網とかがその高さまで引っかかっている、そんな状況を見て、そしてまた、川をずっと遡って、もう本当に先の先、8 kmとおっしゃいましたですね、そんなところまでやはり津波が押し寄せたと。今さらながら津波の怖さ、地震の怖さというものを感じました。

今、復興に向けて一生懸命頑張っていたいておりますし、また防潮堤なども建設されておりますし、いろいろな複合での形で、その津波を防ぐ手だてを講じていただいておりますけれども、しっかりとまさにあの大きな災害というものをいま一度受けとめて、そうしたこともさらにしっかりした姿勢でやっていかなきゃならないという思いを強くさせていただきました。

復興とともに、防災ということも大事だということを痛切に感じた一日でありました。

(以 上)